

2 主体性

視点④ 子どもが始める遊び

子どもは遊びの天才です！子どもから自発的に遊び始める場面は日常的に見られます。子どもたちが自ら遊びの面白さを追求する様々な場面で、保育者は「科学する心」を見取ることができます。継続的に楽しんでいる子どもたちの遊びを、保育者が視点をもって見取ること、子どもの体験の積み重ねや変容を把握する考察が深まり、育ちを捉えることに結び付きます。

以下の事例の子どもたちは、水が流れる距離や流れる速さを意識することで遊びを楽しんでいます。このように**自ら遊びの場を工夫したり使う物や方法を工夫したりする体験**は、「科学する心」に結び付いています。

「3人で競争しよう！」 5歳児

福岡市立金武幼稚園

雨樋を使い、水で空き容器などを流す遊びを楽しんでいる。（1学期当初）

雨樋に興味をもった子どもが、遊び始める。



7月になり、水で流す動きがダイナミックになる。雨樋を2本並べて、ペットボトルの蓋や小さな容器を流すことを競う遊びを始める。

A児は他の遊びから砂場に移動し、雨樋を使って水で空き容器を流す遊びを始める。B児C児もやってきて、同じ場に雨樋を組み立てる。

A児が遊び始めることで、B児C児も心を動かし遊び出している。



A児は「あのバケツまで流れるかな？」という思いをもって、雨樋を組み立てて水で流す遊びを始める。

その横に、B児C児が雨樋を並べて組み立てる。B児C児は、それぞれが水で流す遊びを繰り返すことで、次第に流れる速さを競争する遊びになっていく。B児C児はゴールに見立てて、バケツを雨樋の先に置く。A児も、目標にしていたバケツを雨樋の先に置く。A児B児はバケツに水を汲み、C児はペットボトルに水を汲み、競争の準備をする。3人で競争する遊びをする。



A児が勝つ。A児とB児はあまり差がなかったが、C児はゆっくり流れていた。

B児は「Aちゃん、1位すごい！ここ斜めになっているのに！」と、雨樋のつなぎ目で樋の傾斜が逆になっている所を指さして言う。



A児B児と流れに差のあったC児は、次の競争ではバケツで水を流す。その後、樋の傾きを変えるなど遊びを続ける。

(関連事例3歳児P.34)